問題解決の能力を身に付け，他者と協力して課題を解決していくことができる授業の工夫

日立市立大みか小学校

１　はじめに

総合的な学習の時間においては，課題発見・解決能力や論理的思考力，コミュニケーション能力など，実社会や実生活で活用できる能力の育成が求められている。その実現のためには，問題解決的な活動が発展的に繰り返されながら，他者と協力して課題を解決する協働的な学習をすることが重要であり，加えて思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実を図ることが欠かせないとされる。[*1]

そこで，本単元では，福祉の学習を行うにあたり，ウェビングを活用して自分の課題を設定したり，マトリックス表を用いて児童同士が互いの共通点や相違点などについて発言したりする活動を設定することでテーマに迫った。

２　指導案

⑴ 単元名　　レッツ　トライ　ボランティア

⑵ 単元の目標

○　人と関わり，周囲の人々の幸せを考えていく活動を通して，自分たちにできることは何かを考え，よりよい活動となるように工夫しながら取り組もうとする。　　（関わり合う力）

○　課題に対して自分の意見や思いを持ち，どうすることが相手の立場に立つことになるのか，なぜそうした方が良いのかなど，よりよい活動にするための工夫や改善を加えながら学習を進めることができる。　　（課題を設定し追究する力）

○　自分たちが調べたことや取り組みたいことについて，分かりやすくまとめるとともに，相手に効果的に伝えることができる。　　（表現する力）

○　自分たちが計画した活動を，相手の立場を考えながら，よりよく判断し，改善し，実践するとともに，地域社会に積極的に関わり，自分の思いを実践することができる。　　（自分を伸ばそうとする力）

⑶ 単元について

本校第４学年の「総合的な学習の時間」では，「課題に積極的に挑戦し，みんなと仲良く活動しようとする」「学習の計画を立てたり，学習の仕方を工夫したりすることができる」「伝えたいことやまとめたいことを工夫して表現できる」「進んで人やものに関わることができる」ことを目標としている。第４学年は，自分のことを客観的にとらえ，自己肯定感を持ち始める時期である。このような時期に，体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけを作ったり，他者の視点に対して理解したり，他者への思いやりなどを涵養したりすることは，子どもの発達において重視すべき課題である。

人間関係が希薄だと言われる今日，人間同士が互いの違いを受けとめ，認め合って生きていくことは難しい。そのような中で，福祉に関する学習を行うことは，児童が自分に何ができるかを考え実践し，人間同士がよりよく生きていくことの大切さを感じ，自分自身の在り方や生き方について問い直すきっかけになると考える。

児童の実態調査（事前アンケート）によると，「総合的な学習の時間がためになる」と答えている児童が83%いるが，「楽しみだ」と答えている児童は52%である。また，「福祉について勉強をすることは大切だと思う」と答えた児童は80%，「ボランティアをやってみたいと思う」児童が82%いることから，児童たちも「福祉」は現代社会において大きな課題であると感じていることが伺える。

---

*1　今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開　平成22年11月　文部科学省

【児童の実態（事前アンケート）】　（平成２７年9月１３日実施　男１４人　女１５人　計２９人）

No.	質　問	調査結果
1	総合的な学習の時間について，「ためになる」と思う	とてもそう思う　8人(28%)　そう思う　16人(55%) あまりそう思わない3人(10%)　全くそう思わない　2人(７%)
2	総合的な学習の時間が楽しみだと感じる	とてもそう思う　10人(35%)　そう思う　5人(17%) あまりそう思わない9人(31%)　全くそう思わない　5人(17%)
3	福祉について勉強をすることは大切だと思う	とてもそう思う　13人(45%)　そう思う　10人(35%) あまりそう思わない2人(７%)　全くそう思わない　4人(13%)
4	ボランティアをやってみたいと思う	とてもそう思う　12人(41%)　そう思う　12人(41%) あまりそう思わない1人(４%)　全くそう思わない　4人(14%)
5	福祉体験をしたことがありますか	車いす　ある　7人(24%)　ない　22人(75%) アイマスク・手話・点字・老人体験等は経験者0人
6	やってみたいボランティアはありますか。（複数回答，回答率の多いもの）	募金活動　12人(41%)　被災地の片付け　8人(28%) 服などを寄贈　12人(41%)　ごみ拾い　5人(17%) ペットボトルキャップ集め　9人(31%)

本単元では，児童が興味・関心を持って真剣に取り組むことができるボランティアを題材にした。自分たちができるボランティアを考え，実践していくことで，一人一人が福祉に対する意識を強くし，自らの生活を見直していくきっかけになるであろうと考える。

本単元の指導にあたっては，まず，福祉問題についてのアンケートを取ったり，インターネットで調べ学習をしたことをもとにウェビングマップを作ったりする活動を通して，福祉とはすべての人が「しあわせ」や「ゆたかさ」を感じて生活をすることができる社会を作ることであると知る。続いて，ゲストティーチャーから話を聞いたり，アイマスクや車いすなどを体験したりすることで，お年寄りや障害を持つ人の理解を深める。さらにこれまでの学習をもとにして，自分たちができるボランティアを考え実行していく。その中でボランティアについて深く追究したり，身近な地域のボランティアにもふれるようにしたりする。そして，これから自分達はどのような行動をとっていけばよいか話し合い，実践していけるようにさせたい。

本単元において言語活動を充実するために，①インターネットで収集した様々な情報を取捨選択し，ウェビングマップにまとめていき，課題を設定する活動，②付箋紙とマトリックス表を用いて考えを深める活動，③自分で考えたボランティアについて，友達と情報を交換し，整理･分析する活動を取り入れる。

(4) 単元の指導計画（６０時間扱い）

段階	時間	主な学習活動・内容	指導上の留意事項（◎は評価）
つかむ	1～16	・ガイダンスを通して，学習計画を確かめ，見通しを持つ。 ・「福祉」とは何か，インターネットから情報を集める。 ・集めた情報を使って，ウェビングマップを作り，自分の課題を設定する。	・福祉についてのアンケートを実施し，関心を高める。 ・多くのホームページを閲覧し，必要な事項についてワークシートに記録できるようにする。 ・収集した多くの情報を関連付け類型化し，その中から課題を見出すようにする。 ◎福祉とは何かを知り，課題意識を持っている。（課題を設定し追究する力）
調べる・活動する	17～38 **本時 27/60**	・お年寄りや障害を持つ人の生活について，自らの考え（予想）を付箋紙に書き，同じ課題を持つ友達と話し合い，自分の考えを整理する。 ・福祉の専門家（県福祉キャラバン隊）からお話を聞いたり，点字や車いす，高齢者疑似体験，アイマスクの体験学習をしたりする。 ・体験学習を振り返った感想や分かったことを付箋紙に書き，マトリックス表に類型化し，分析する。 ・大みかの町が様々な人にとって暮らしやすいかを調べ，より暮らしやすい町にするためのアイディアをまとめる。	・グループの中で情報を交流したり，教師がアドバイスをしたりすることによって，様々な場所や状況におけるお年寄りや障害を持つ人をイメージさせ，考えを広げさせる。 ・不自由さを体験することにより，お年寄りや障害を持つ人に対してどのように接すればよいかを実感として捉えさせる。 ・グループでの話し合い活動を通し，収集した情報を類型化したり，分析したりする。 ◎人と関わり，周囲の人々の幸せを考えていく活動を通して，自分たちにできることは何かを考え，よりよい活動となるように工夫しながら取り組もうとする。（関わり合う力）
まとめる・広げる	39～60	・自分たちができるボランティアを考える。 プルタブ集め ペットボトルキャップ集め 使用済みの切手集め ユニセフ募金 ・他の学年や地域の人々に呼びかけ，ボランティアを実践する。 ・これまでの活動をまとめて発表し，全体で意見交換を行い，これからの自分に何ができるかを考える。	◎課題に対して自分の意見や思いを持ち，どうすることが相手の立場に立つことになるのか，なぜそうした方が良いのかなど，よりよい活動にするための工夫や改善を加えながら学習を進めることができる。（課題を設定し追究する力） ◎自分たちが計画した活動を，相手の立場を考えながら，よりよく判断し，改善し，実践するとともに，地域社会に積極的に関わり，自分の思いを実践することができる。（自分を伸ばそうとする力） ◎自分たちが調べたことや取り組みたいことについて，分かりやすくまとめるとともに，相手に効果的に伝えることができる。（表現する力）

(5) 本時の活動

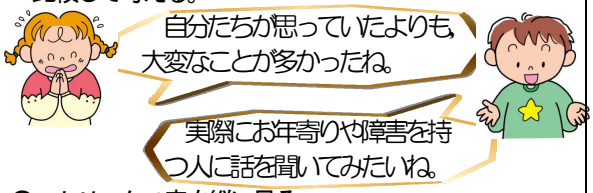
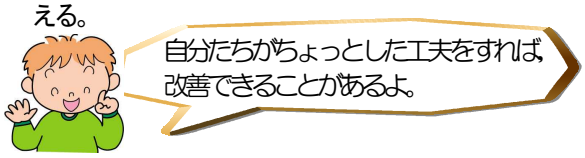
① 目標

体験学習を振り返った感想や分かったことを付箋紙に書き，マトリックス表に類型化し，分析する。

② 資料・準備

付箋紙，マトリックス表，前時に記入した付箋紙，体験学習の画像，ワークシート

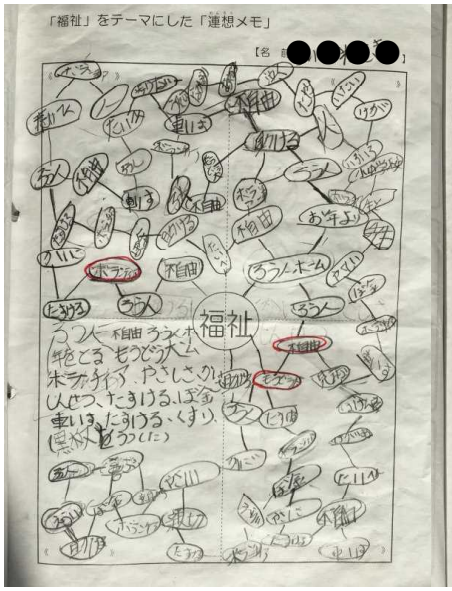
③ 展開　（☆は言語活動を充実する手立て）

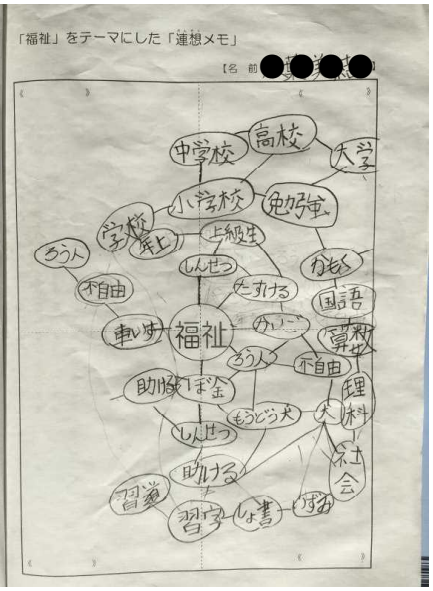
学習活動及び内容	児童への支援と評価
1　調べ学習や体験活動を振り返り，本時のめあてを確認する。 〇「福祉」とは，どのようなものだっただろうか。 〇様々な体験をして，どのような感想を持っただろうか。 **体験学習を振り返り，感想を述べ合おう** お年寄りや障害を持つ人が， 「しあわせ」を感じて生活するには…ｰ	・進んで発言している児童を賞賛する。また，なかなか発言できない児童には，具体的に話す内容を伝えて発言できるように支援する。 ・お年寄りや障害を持つ人は，自分たちもなり得ることに気付かせ，児童自身の身近な存在であることを捉えさせる。 ・ワークシートに活動の目標を記入する。
2　調べ学習や体験活動を通し，感想を付箋紙に記入する。 〇「点字」「車いす」「アイマスク」「高齢者疑似体験」の体験を通して，気付いたことや感じたこと，疑問，やりたいことなどを各自付箋紙に記入する。 「くらしやすい」→緑色の付箋紙 「くらしにくい」→水色の付箋紙 〇各グループごとに，付箋紙をマトリックス表に貼りながら類型化する。	・前時に記入した予想にこだわらず，気付いたことなどは，すべて付箋紙に記入させる。 ・A男やB男には，視覚的な興味をひくように体験時の画像を提示する。
3　マトリックス表を見て，グループで気付いたことを話し合う。 〇マトリックス表を横に見る 「自分たちの予想」と「体験して分かったこと」を比較して考える。  〇マトリックス表を縦に見る。 「くらしやすい」と「くらしにくい」を比較して考える。  	・マトリックス表の見方を確認し，考えの共通点や相違点に気付かせる。 ・比較をして気付いたことや感じたことをワークシートに記入しながら，グループごとに話し合いを進める。 ・考えがまとまらない児童には，友達の考えと自分の考えとの相違点や予想と実際の相違点などを見出して，発言するように助言する。 ☆グループで話し合いをしながら，課題解決に向け，情報を類型化したり，分析したりして，自分の意見を発表し，友達と情報交換をする。 （評）体験学習を振り返った感想や分かったことを付箋紙に書き，マトリックス表に類型化し，分析している（活動の様子の観察・ワークシートの記入） ・マトリックス表の特徴を生かすと，情報を比較しやすいことに気付かせる。
4　グループごとにマトリックス表から読み取ったことや気付いたことを発表し，感想を述べ合う。	・班長を中心に話し合ったことをまとめ，知らせる価値があると思われることを発表する。
5　今日の活動を振り返り，考えたこと，感じたこと，学んだことをワークシートに記入する。	・活動したことを振り返り，「誰もが暮らしやすい町にするためのアイディア」をまとめる次時の活動につなげる。

3　資料（写真等）

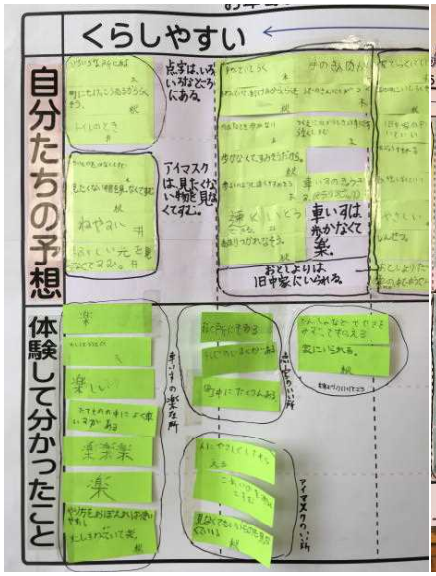
(1) 活動の様子

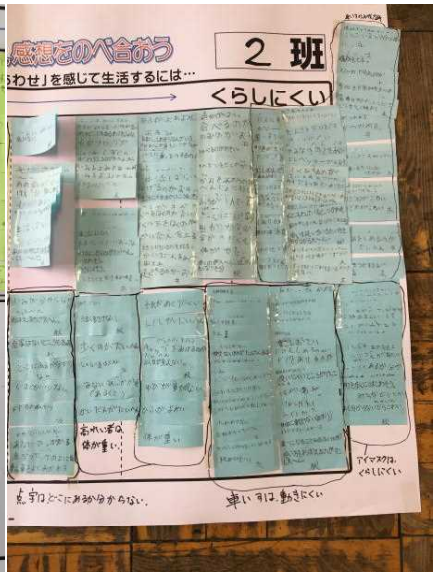
(2) 作成したウェビングマップやマトリックス表





・「福祉」という言葉を中心にして，連想する言葉を結びつけた。
・児童たちが選んだキーワードで多かったものは「車いす」「募金」「老人」「ボランティア」等であった。
次の活動である福祉体験に結びつけることができ，活動のつながりができた。





・福祉体験の前と後に，お年寄りや体が不自由な人の生活を予想し，「暮らしやすい」点と「暮らしにくい」点を付箋紙に書き，比較した。
・班ごとに話し合いながら，付箋紙を分類することができた。

4　成果と課題

(1) 自分の課題を見いだすために，福祉に対するイメージをウェビングによって広げる場を設定した。福祉という言葉を，「ふだんの くらしの しあわせ」に置き換えて提示し，身近な問題としてとらえさせることにより，児童のイメージを広げるようにした。

　結果，多くの児童がたくさんの言葉を書き出したウェビングマップを作成することができた。

(2) マトリックス表の見方を指導することで，班長を中心に話し合いを進め，表から情報を読み取り，思考・分析をし，収集した情報を類型化することができていた。また，マトリックス表の特徴を生かすと情報を比較しやすいことに気付き，それによって話し合いに積極的に参加する姿が見られた。その結果，「くらしにくい」ととらえていたことが，自分たちの工夫によって改善できるということに気付かせることができ，話し合いの有効な手立てとなった。